

境港市ことぶきクラブ連合会広報紙



健康・友愛・奉仕

ことぶき

第60号

発行日
令和7年3月31日

■編集・発行:境港市ことぶきクラブ連合会

〒684-0043 境港市竹内町40

eスポーツでなんと銅メダル!



ことぶきクラブが ねんりんピツクへ参加

みなとテラス(境港市民交流センター)にて

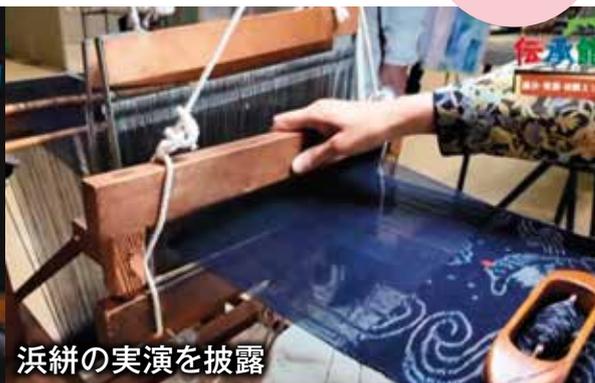
地域文化伝承館へは6チームが参加

米子コンベンションセンターにて

詳細は
2ページに...



オープニングの豪華ハワイアンダンス



浜絣の実演を披露

令和6年度後半の 行事を振り返って



境港市ことぶきクラブ連合会

会長 川口 昭一

令和6年度境港市ことぶきクラブ連合会行事は県老連計画を含めると8月から1月まで非常に密になり、会員の皆様には参加要請をお願いして迷惑をお掛け致しました。ご協力のお陰で計画通り今年度の行事を実行することが出来ました。参加して頂いた多数の皆様および担当した各委員会委員に紙面を借りて御礼を申し上げます。

今年も「住んでよかった境港市・入って良かった高齢者クラブ」を目指して会員の健康維持増進にスポーツ大会・地域に住まわれる高齢者宅への友愛訪問と見守り・施設での傾聴活動と講演会・地域で活動している伝統文化を披露する文化祭と作品展・済生会境港総合病院周辺の清掃作業等を市シルバースセンターの方と一緒に実施しました。

また、10月には県老連主催の地域文化伝承館にステージとブースに市寿連の6団体が参加して全国から来られた方々に伝統芸能を楽しんで頂きました。この準備に4日間

お手伝いされたスタッフの方お疲れさまでした。

その他「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」の境港市担当で開催されたeスポーツ大会に市寿連から2チームが参加して前年度からの練習成果と選手の頑張り、1チームが決勝戦で見事に3位入賞となりました。

来年度は、今年の成果を参考にしてもっと地域の高齢者の皆さんが参加し易く、楽しめる行事を役員一同で計画して行きます。会員の皆様よろしくご支援とご協力をお願いいたします。

川口 昭一 会長

全国老人クラブ会長表彰

〔個人表彰〕

今回の受賞に当たって

広報委員長 安田 正志



平成29年12月に門脇真澄前会長が現職のまま急逝された。私もかつて県退職校長会総務研修部長の役職にあり、当時の

潮 風

「ことぶき60号」を喜びつ

境港市ことぶきクラブ連合会が誕生したのは、昭和39年9月で、60年を重ねました。広報（ことぶき号）の創刊は平成3年3月ですが、この号で60号を数えました。

大きな節目として、平成26年10月に創立50周年を喜ぶ「創立50周年式典」が行われ、永遠に残る「境港市ことぶき連合会創立50周年記念誌」が発行されました。

広報の視点からこの10年間、第50号から第60号までをピックアップ的にたどってみますと、1年1回発行が2回となり、記録写真が一部カラー化されました。35号（平成24年3月）では、我が連合会活動も国際化。平成23年12月2日大韓老人ソウル連合会から37名を迎えての国際交流を大きくアピールしました。第46号（平成30年3月）では先進地連合という名指しを頂いて、愛媛県今治市から22名の視察団を迎えての交流会を特集しました。

「幸せつなぐ川柳大会」は継続の礎が確立し、市長・議長・わが会長含め、毎回市長室での作品審査会は県内には珍しく、多くの作品が寄せられるようになりました。

今後、更に、石破総理大臣が力説される「楽しい日本」、その推進団体でありたいものです。

（広報委員 遠藤 量）

最大課題であった「鳥取教育の日」実現に向けて取り組んでいた。その実現を求める県大会を米子市で開催することになり、いかに大

人数を集められるかで西部地区各種団体の責任者にも集まっていたいただき協力をお願いした。その時、際立って積極的態度を示されたのが門脇前会長であった。使命感の強い方だと感じた。その様な偉大な前会長の後任選びは難儀を極めたと聞いている。さらに境港市ことぶきクラブ連合会は会員数も2000名を優に超え、活動行事も多く参加者も多い。

その様ななかで新会長に選ばれたのが川口昭一氏であった。傍から見れば、将に「火中の栗を拾う」出来事であったというしかあるまい。その事だけでも氏の力量や人柄がしのばれる。

会長就任後の日本は、様々なひずみを抱え、全国の老人クラブでも新入会員の減少とか、指導者の高齢化などの課題に悩まされている。

この度の川口会長の全国表彰は具理事としての活動が顕著であった為という。しかし、「コロナ禍にも屈することなく、境港のことぶきクラブ連合会が頑張り続けられたことに」会長 永らくお疲れさまでした。全国表彰おめでとうございます。」というのが会員や市民の素朴な感想ではなかるつか。その様

な声を代弁してお祝いのごときは述べさせていただきます。

女性委員会

全国老人クラブ会長表彰

【団体表彰】

女性委員会の受賞に当たって

ことぶき市寿連会長 川口 昭一



現委員長
渡辺洋子さん

前委員長
庄司正子さん

女性委員会は結成以来、毎年数度にわたって一人暮らしの老人に対する友愛訪問や介護施設訪問を行ってきた。また平成

25年からは多くの会員を集めた「ことぶき研修会」を開催し、講師を招いて現在の会員が抱える問題を演目に取り上げ掘り下げてきている。更に当地ならではの「魚教室」も令和5年度より開始した。

これらの活動は女性ならではの着眼点を生かし、会員相互の親睦、交流および健康に関する知識の普及に尽力されてきた。

今回、専門部会である女性委員会活動に対して全国表彰を受けるのは初めての事で、

まさに「健康・友愛・奉仕」活動に対する称賛であり、誠に素晴らしく皆さんで喜んで差し上げたい。

全国老人クラブ会長表彰

【団体表彰】

境港市ことぶきクラブ連合会(会長川口昭一)

鳥取県老人クラブ連合会会長表彰

【団体表彰】

三軒屋あじさいクラブ(会長 松本 功)

境港市ことぶきクラブ連合会会長表彰

【個人表彰】

山本 修 (竹内ことぶきクラブ)

松本 雪江 (高松町老壮クラブ)

武良 節子 (高松町老壮クラブ)

松本 信子 (外江第二明生会)

鈴木 妙子 (皇の松壮生会)

【団体表彰】

福定町老人クラブ福寿会 (会長湯原みどり)

竹内ことぶきクラブ (会長渡邊真紀夫)

新屋長生会 (会長田口数雄)

小篠津町ことぶきクラブ (会長角 甫)

第五回 幸せつなぐ川柳大会

徐々に定着、発展を

令和2年度から始まった「幸せつなぐ川柳大会」は今年5回目を数えました。今回の課題は「船」として公募。計86点の句が寄せられました。

作品の審査はことぶきクラブからの選考委員のほか、例年の通り、境港市長及び市議会議長にも審査員として選考に加わっていただき、三賞及び入選の作品を決定しました。

三賞、入選者の表彰式は11月7日(木)新装になった市文化ホールで開催の第58回「ことぶき文化祭」の席上で行われました。

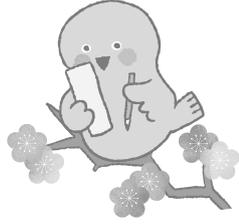
「幸せつなぐ川柳大会」というネーミングに思いを込めたこの大会は徐々に定着しつつあります。さらなる発展を期待します。



市長賞 (北農 幸恵さん)



市寿連会長賞 (角 甫さん)



市議会議長賞 (榎野 紀美さん)

境港市長賞

出入りする 船をかぞえし 子供の日

花町 北農 幸恵

境港市議会議長賞

昼下がり 居間でふねこぐ 母愛し

竹内町 榎野 紀美

境港市ことぶきクラブ連合会会長賞

船が着く 急げキタロウ ゲタ鳴らし

小篠津町 角 甫

入選作品 十点

泥船に 老後の金が 積んである

幸神町 吉村 尚久

鬼太郎も 豪華客船 お見送り

新屋町 阿部 春代

豊漁の 漁船嬉しい 大漁旗

外江町 池 久満太

深海に 眠る戦禍の 船幾多

誠道町 由浪 容子

妻は 船舵とる夫と 海原へ

元町 篠原 道江

その昔 ポンポン船で 通学し

渡町 田口 清子

ご繁盛 入船出船 さんご節

蓮池町 門永 清美

ふるさとへ 心の船が 動き出す

中野町 香月富貴江

嫁入りも 里帰りも知る 渡し船

高松町 松本 雪江

人生の 船出を祝う ドラの音

清水町 山本多恵美

令和6年度

活動のあしあと

総務委員会

総務委員長 山本 修

3委員会、合同の日帰り研修

11月13日(水)、総務、広報、若手の3委員会の有志12名がマイクロボスに乗り、島根半島の美保関林道を経由して、佐太神社、熊野大社、そして本殿が国宝という神魂(カモス)神社を日帰りで巡りました。

神在月の出雲の古社は常にも増して神々しく、参加された皆さんもそのおかげかどことなく清々しくも神々しい雰囲気をもたらされた様でした。



国宝の神魂神社本堂



素敵なバイキング料理で皆さん大満足

令和7年ことぶき新年研修会

今年の新年研修会は令和7年1月15日(水)、境港市老人福祉センターで「港アーカイブス」代表の松尾ゆうへい氏による講演会を行い、その後、米子市のスマイルホテルに会場を移して交流会を行いました。

交流会には会長以下当連合会から39名、来賓として市から伊達市長、黒崎福祉部長、社会福祉協議会から佐篠会長、さらに講演会講師の松尾ゆうへい氏もお迎えし、和やかな中にも有意義な交流のひと時を過ごしました。



集会室(浜の里)で熱心に聴講

文化委員会

文化委員長 渡部 靖郎

第58回ことぶき文化祭

11月7日、改装済みの文化ホールに於いて開催されました。当日は天候の不順や他行事との重なりと苦慮しましたが、昨年と同様256名の参加を頂きました。

川柳表彰には「幸せつなぐ川柳大会」や「高齢者の為の交通安全川柳大会」で多数が表彰され、それぞれが日々口ずさみたい様な作品でした。

演芸発表は10団体57名の出演で、力強い「詩吟」から「傘踊り」、あいきょー会の「詐欺



新年交流会

対策」、令和の踊り、木曾路の雨、明日坂、松竹梅、悠久の譜、きなんせ節、更にダンシングヒーローと、力強い演技と華やかな舞踊で元気を頂きました。

ファイナーレはいつもの石田光輝さんの出演で歌があり、語りでは懐かしい境港の風景を。そして最後には出演者と来賓者で華やかに「鬼太郎音頭」を生の歌声で華やかに踊り、盛会に終わりました。



アツと驚きダンシングヒーロー



伝統芸能傘踊り

第32回ことぶき作品展

12月の7日(土)、8日(日)の2日間、浜の里において開催されました。開催時期として12月は初めてです。天候不順の中、各地の行事とも重なり来訪者は127名と振るいませんでした。しかし作品をゆとりある姿勢で鑑賞でき、作者を思い出しながら過ごすことも出来ました。時には作品に掲載された作者にも興味を抱かれ、この作品展への関心を深められたようです。

来場者はやはり70歳以上が多く、その子供や孫も連れて来たくなるような作品展が必要かなとも感じました。



健康委員会

健康委員長 竹内 健治

第22回ニュースポーツ大会

令和7年1月23日、境港市民体育館において開催されました。

大寒というものの13度と暖かい日の中、参加された120名の皆さんの明るい声が体育館に響き渡り、役員20名の方々も含めて春のような元気を頂きました。

ゲームによる事故もなく無事終了しました。皆さんお疲れさまでした。

各競技におけるチームの順位は次の通りでした。

- 1等賞 竹内チーム(渡邊真紀夫チーム)
- 2等賞 中浜チーム(高木敏行チーム)
- 3等賞 外江明生チーム(東憲一チーム)



120名による準備体操

若手委員会

若手委員長 湯浅 明美

第13回健康ウォーキング大会

11月2日は竜ヶ山公園において健康ウォーキングの予定で皆様にご案内をいたしておりましたが、前日からつづく悪天候で行う事が出来ませんでした。しかし委員の方々は朝から大変な準備をして下さり、参加者におかれましても、寒く雨の降るなか総勢30名もの人が集まり、ビンゴゲームだけでも楽しんで頂きました。また、境港警察署交通課の安部様による安全講話は大変ためになりました。



境港警察による安全講話



ピンゴの前に準備体操



会長自ら健康体操の指揮を



贈呈品の目録をお渡し

女性委員会 女性委員長 渡辺 洋子

施設訪問(さかい幸朋苑)

9月4日、ことぶきクラブの川口会長、市協の永井局長、広報担当、他9名の女性委員で施設訪問し、日頃家庭で眠っているタオルや手作り雑巾等を集めて持参しました。今回はコロナもあらかた治まりましたので、職員の方が施設内を詳しく案内して下さいました。浜田施設長からは幸朋苑の福祉施設としての概要を説明して頂き、私たちが日頃から思っている費用の事や入所条件等に関する質問にも答えて下さいました。幸朋苑は配慮の行き届いた施設である事がよく理解でき、充実した訪問となりました。



介護者の負担軽減の為の器具も多く設置



タオルや雑巾がこんなに集まりました

令和6年度傾聴講演会

傾聴委員会

傾聴委員長 中村登美子

8月24日、傾聴講演会において「認知症の人の声を伝えたい」をテーマとし、91人の参加を得て「みなとテラス」にて開催しました。講師には元認知症通所施設長の矢崎タミコさんをお招きしました。

ここで「若い・認知症を幸せに生きる」ためには、今も昔も人とのつながりと支え合いが大切であり、その基盤に傾聴があると話されました。支援の体験事例として「出来なくなったことではなく、出来ることを大切にす」というお話には多くの学びがあり、その成果に感動しました。

傾聴委員会は「傾聴」に特化したボランティア活動を実践する委員会として発足し、もう10年を迎えました。委員会では傾聴のパスポートである「アイコンタクト・笑顔・うなづき」という重要性を深く理解し、傾聴活動ばかりでなく日常会話での取入れも推奨し、これからの傾聴ボランティア活動のひろがりや充実を目指して行きます。



矢崎講師の講演



委員長からも一言

60周年記念「10年小誌」の発行

広報委員会

広報委員長 安田 正志

平成26年度に境港市ことぶきクラブ連合会が創立50周年を迎え、盛大な記念大会を開催して以来10年が経過しました。

川口 昭一 会長より、その間の歴史を集積保存して今後に備えたいので創立60周年記念の「10年小誌」を広報委員会が中心になって作成願いたいとの依頼がありました。

そこで広報委員各位には知恵を出してもらい、併せてこれまでの広報紙「ことぶき」や「ホームページ」の資料も駆使して作業を進めて行きました。

その間、理事の方々や単位クラブからも様々な資料や文章を提供して頂きました。また「十年間の思い出」原稿にご協力いただき、小誌に華を添えていただきました。

この10年間の歴史を確認する文献として、また今後の資料として活用いただければ幸いです。



広報委員会のメンバー

地区クラブの活動

素晴らしい一生

「あの時を覚えていますか」

上道五葉会 戸塚 扶美子

上道町会館ふれあいの家ではことぶきクラブの会員をはじめ利用者全員で、賑やかな忘年会をしました。幼少時代や結婚式などの節目節目のテーマに分けてそれぞれが衣装を凝らし、遠い昔にタイムスリップしました。特に結婚式組は時代的にもウエディングドレスを着用した事はなく、ワクワクしながらいざ着用しようとする、ドレスが細くて苦しいとか、腰が曲がって歩くのが大変だと言いつつも皆の顔は笑！笑！終始笑顔でした。



アドリブでほんとの夫婦みたいな会話(笑)



結婚式組はなんと5夫婦も登場



チョット若く戻りすぎ



当時こんな立派なランドセルは無かったな



あの時みんな若かった！



私が子どもの頃、台場公園の東側（今では昭和町埋立地になるが）に遠浅の海水浴場が広がっていて潮干狩りもできた。その先の美保湾側に突き出た堤防の先に小



3300カ所の全ての灯台から姿を消したという。

有人灯台といえは、灯台守の生活を描いた「喜びも悲しみも幾歳月」という映画が思い出される。米子朝日町の映画館（朝日座）で、正月に親に連れられて見に行った。その映画が作られた年から逆算すると中学一年生位の頃と思われる。その時の記憶とパソコン操作でその映画を辿ってみよう。

監督は木下恵介、主演は佐田啓二と高峰秀子で、灯台守の各赴任地での春夏秋冬の暮らしぶりが描かれている。しかし、最も印象に残っているのはラスト

シーンである。

初老を迎えた有沢夫妻（佐田啓二と高峰秀子）が最後の赴任地となった静岡県の御前崎灯台に佇み沖合を行く外航船を待ち構えている。夫妻には息子と娘の2人の子供がいたが、息子は喧嘩がもとで既に亡くなり、残された娘は結婚が決まり、夫の赴任地であるエジプトのカイロに向かって旅立つという。「やっぱり横浜まで見送りに行けばよかったかしら」と呟く妻に、夫は「私たちのこれまでの生活からすれば、ここが見送るのに最もふさわしいよ」と答えると妻も頷く。沖合に待ち構える船が姿を現す。夫は燈火のスイッチに手をかける。灯台からの燈火に船からはドラの音が応答する（娘夫婦が船長に事情を話して依頼をしていた）。

その間、若山彰の同名の主題歌

一、俺ら岬の灯台守は 妻と二人で沖行く船の

無事を祈って灯をかざす 灯をかざす

二、冬が来たぞと海鳥啼けば 北は雪国吹雪の夜は

沖に霧笛が呼びかける 呼びかける

三、離れ小島に 南の風が 吹けば春くる

花の香便り 遠い故里思い出す 思い出す

四、星を数えて波の音きいて 共に過ごした幾歳月の

喜び悲しみ 目に浮かぶ 目に浮かぶ

が流れ、今も耳に深く残っている。

この場面は有沢夫妻の灯台守生活のクライマックスであるが、2人の退職後の生活を暗示しているようにも見える。

私の敬愛する思想家の「魂の未熟な国民には民主主義は無理だ」との考えに触れた時、何故かこの映画が思い浮かんだ。我が国は、第二次世界大戦後は、「自由・平等・人権」を旗印に掲げてきた為、国民も単なる「路傍の石」では我慢できなくなっている。そんななかでも不自由で不健全な生活が強いられる灯台守の生活に「滅私奉公」の精神がだぶったのであろうか。

私は、家内に先立たれて「独居老人」中である。大阪方面に嫁いだ娘2人が、月に1回程度帰って、掃除・洗濯・買い物などをやってくれるが、終われば（受験期の子どもも抱えている為）その日のうちに帰って行く。

灯台守の勤務の中でも絶海の孤島、無人島の務めが最も過酷であるう事は言うまでもあるまい。年によっては補給船が来るのは年一回という事もあるという。それを見送る時の灯台守の心を察せんとすれば、こちらの心まで切なくな

「喜びも悲しみも幾歳月」

さな灯台が見えていた。逆に近くの大規模な灯台といえは、島根半島の先端、地蔵岬にある美保関灯台であろう。この灯台は、島根県の日御碕にも立派な灯台が聳えているが、山陰地方初の本格的な灯台として建設されたという。

今ではその先に隠岐の島々も霞んで見える雄大な日本海を見渡せるビューポイントとしても賑わっている。その広さや周辺の付属施設の規模からして、相当の人数が灯台を守っていたと思われる。美保関からも近く比較的便利な部類の灯台だっただろう。

日本の有人灯台は、平成18年（2006年）に長崎県の五島列島の女島灯台を最後に国内約

文芸欄

俳句

外江海峡句会

どの顔も秀才らしく受験生

板倉 弘明(外江町)

電柱の北面のみや雪化粧

遠藤 量(外江町)

前向きな言葉並べて初硯

足立 春美(外江町)

おだやかな団らんの時年始め

渡部 瑞子(日ノ出町)

赤貝の煮つけ大皿母の味

篠原 道江(元町)

余子俳句同好会

寒桜まだかまだかと傘寿人

池淵 靖夫(中野町)

行く雲に糸かけ凧とする遊び

大谷 和三(竹内町)

百幹の竹のざわめき彼岸西風

坂井 貴子(竹内町)

春立つやさきて何をするこの先は

大隅 静(竹内町)

潮騒俳句会

接岸の巨船に春光惜しみなく

遠藤 量(外江町)

みどり児の知恵のふくらむ芽吹かな

出木 俊子(馬場崎町)

早春の調べ奏づる村の川

坂井 貴子(竹内町)

春疾風バス待ち刻のみだれ髪

渡部 瑞子(日ノ出町)

俳人に覗き込まれて水ぬるむ

大谷 和三(竹内町)

川柳

境港さつき川柳会

初日の出昭和百年我九十

門永 慈子(上道町)

初誕生大物になるこの笑顔

遠藤 量(外江町)

老いてこそ幼なじみのまんまごと

永見 泰二(新屋町)

さいわいをぐる巻きにして巳が包む

渋谷 博子(上道町)

トランプ氏次々花火自己主張

徳尾 勝(上道町)

トランプにやっけてたまるか平和賞

由浪 容子(誠道町)

亡母の面巡りめぐって我が顔に

門永 清美(蓮池町)

ちぎれ雲そのままゆけそれが好き

南家 朝子(渡町)

初詣行けぬ老身神にわび

中井 一榮(上道町)

花巡り境台場もお気に入り

篠原 道江(元町)

千支人形自分のために買いました

田口 清子(松ヶ枝町)

一服に思わずみかん手が伸びる

雲内 恭子(渡町)

野菜高騰キャベツ一玉躊躇する

伊野美津子(馬場崎町)

落のとう春が巡って顔を出す

熊川よしの(竹内町)

編集後記

広報委員会の仲間である誠道町の岡野貞俊さんの訃報を一月に聞きびっくりした。本人から体調を崩していると聞いていたが、あまりに早い別れであった。もっと長く一緒にとおぼせるような人柄であった。世の無常を思わざるを得ない。奇しくも、「ことぶき第58号」の[潮風](2ページ)に記載されている『三方よし』が、岡野さんの貴重な遺稿になってしまった。今となってはご冥福を祈るのみである。



ホームページは
コチラから

(広報委員会)